

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

御杖村まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

奈良県宇陀郡御杖村

### 3 地域再生計画の区域

奈良県宇陀郡御杖村の全域

### 4 地域再生計画の目標

本村は、奈良県の東部に位置する山あいの村で、1980年に総人口が3,430人だったが、住民基本台帳によると令和2年には1,578人まで減少している。国立社会保障・人口問題研究所によると、2045年には2015年比で総人口が約31.3%となる見込みである。

年齢5区分別人口構成比の推移をみると、昭和55年から令和2年までにおいて、65歳以上の高齢化率が17.7%から57.0%と40年間で39.3ポイント増加している一方、0歳～14歳の年少人口比率は18.0%から3.2%と14.8ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかる。なお、総人口に占める生産年齢人口構成比については、昭和60年の65.1%をピークに減少に転じ、令和2年に39.8%となっている。

自然増減については、死亡数が出生数を上回っている状態であり、令和元年には35人の自然減少となっている。

合計特殊出生率については減少傾向にあり、直近では全国平均、奈良県平均を下回っている。平成25年～平成29年では1.25となっている。

社会増減についてしてみると、近年転入数・転出数ともに増減して推移しているが、転出数が転入数を上回る社会減少の状態が続いており、令和元年には13人となっている。

人口減少や少子高齢化が進むにつれ、基幹産業である農林業の担い手不足による

産業の衰退、空き家や耕作放棄地、放置林の増加により防災、防犯、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼし、集落の維持が困難になる。

これらの課題に対応するため、本計画において次の3つの基本目標を掲げ、産業の振興、子育て支援、移住促進など様々な分野で住民と行政が共同で取り組み、村民が健やかに安心して暮らし、美しい自然に囲まれながら、学び、働き、生活を楽しめるむらづくりを推進する。

- ・基本目標1 “創造の杖”で“しごと”の縁を広げる
- ・基本目標2 “育成の杖”で“ひと”の縁を育む
- ・基本目標3 “環境の杖”で“むら”の縁を深める

**【数値目標】**

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	野菜の農業産出額	3.9億円	5億円	基本目標1
	遊休農地面積	2.2ha	2.0ha	
	中核的な担い手への集積農地面積	78.7ha	83.7ha	
	新規参入者数	個人1 法人0	5年間で 個人5、法人2	
	新規林業従事者数	1人	5年間で4人	
	搬出間伐面積	8.56ha/年	5年間で50ha	
	商品販売額(小売・卸売)	9億円	10億円	
	農産物等直売所の年間売上額	4,300万円	6,000万円	
	製造品出荷額	0.5億円	0.6億円	
	開発された特産品累計数	2品	5品	
	創業支援による累計雇用者数	2人 (H27~30)	5年間で5人	

		年度)		
	ログハウスキャビン販売台数	0	5台	
	実務に役立つ資格の取得支援 累計人数	3人 (H27~30 年度)	5年間で10人	
	「姫石の湯」年間利用者数	6.0万人	9万人	
	「ザ!雑巾ダッシュ!!」の出場 者数	180人	250人	
	やまと姫マラソンの出場者数	293人	350人	
イ	乳幼児の健康状態の把握率	100%	100%	基本目標 2
	保育士の充足率	100%	100%	
	小中学生保護者の「心と体の 健やかな成長を促す教育」の 満足度 (保護者アンケート)	55%	60%	
	伊勢本街道関連事業の実施件 数	2件	5年間で15件	
	新たな文化創造の取り組みの 件数	2件	4件	
ウ	マンツーマンでの移住相談対 応件数	24件 (H28~30 年度)	年間10件	基本目標 3
	移住による公的賃貸住宅入居 件数	3件	5年間で5件	
	空き家の改修・賃貸助成制度 利用件数	2件 (H28~30 年度)	年間2件	
	多世代の同居・近居の支援の 利用件数	1件	年間2件	
	移住世帯数	2世帯	年間2世帯	

	ふれあいバスの年間利用者数	8,314人	8,314人	
	むらおこし団体数	8団体	9団体	
	国際交流事業での来訪客数	22人	5年間で50人	

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する  
特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

御杖村まち・ひと・しごと創生推進事業

ア “創造の杖”で“しごと”の縁を広げる事業

イ “育成の杖”で“ひと”の縁を育む事業

ウ “環境の杖”で“むら”の縁を深める事業

#### ② 事業の内容

ア “創造の杖”で“しごと”の縁を広げる事業

##### ○農業の振興

後継者・新規就業者の育成、営農体制の強化を図り、高品質な農産物の効率的な安定生産を促進していく。また、農業の多面的機能の発揮につながる取り組みを進めていく。

<具体的な事業>

- ・新規就農者誘致事業
- ・担い手支援事業 等

##### ○林業の振興

森林環境税や「新たな森林経営管理制度」など、新たな制度を活用しながら、自伐型の従事者を含め担い手の育成を図るとともに、計画的な森林保育の推進、木造住宅づくりの奨励などにより、50年・100年といった長期的視野で林業を振興する。

＜具体的な事業＞

- ・間伐促進事業
- ・自伐型林業推進事業 等

### ○商工業の振興

商工会等と連携し、既存商工業の振興を図るとともに、企業誘致、6次産業化、事業承継・起業促進などの取り組みを進める。

＜具体的な事業＞

- ・プレミアム商品券発行事業
- ・地域活性化創業支援補助金 等

### ○観光の振興

本村の自然や歴史文化などの観光資源を「縁結び」のエピソードという「横串」でつなぎ、希少性を感じる土産品や観光サービスの開発に努め、観光地としてのグレードアップを図る。

＜具体的な事業＞

- ・観光イベントの推進（やまと姫マラソン、雑巾ダッシュ等）
- ・みつえ高原牧場周辺地区まちづくり構想事業 等

## イ “育成の杖” で “ひと” の縁を育む事業

### ○地域ぐるみの学び・育ちの推進

妊娠期からの切れ目のない支援により、母子の心身の健康を守るとともに、保育所での教育・保育の充実、地域子育ての支援の充実に努める。

＜具体的な事業＞

- ・子育てしやすい環境づくり（医療費、保育料、給食費の無料化）
- ・健康づくり推進事業 等

### ○学校教育の充実

地域とともに歩む「スクール・コミュニティ」の理念のもと、小中一貫教育を推進し、生きる力を身に付け、ふるさとに誇りをもって生きぬく子どもの育成を図る。

＜具体的な事業＞

- ・小中一貫教育体制づくり推進事業
- ・外国青年招致事業 等

## ○歴史・文化の保全と発展

住民が地域に誇りを持って暮らしていくために不可欠である貴重な歴史文化を後世に継承していくとともに、新たな文化創造の取り組みを発展させる。

＜具体的な事業＞

- ・伊勢本街道整備事業
- ・新たな文化芸術の創造 等

## ウ “環境の杖” で “むら” の縁を深める事業

### ○移住・定住の環境整備

本村への移住希望者を増やし、着実な移住につなげるため、情報提供や住まい・しごと等のマッチングを進めるとともに、公共交通など、住み続けられる定住環境を確保・充実させる。

＜具体的な事業＞

- ・移住定住促進事業
- ・村内交通バス運行事業 等

### ○コミュニティの活性化

生活課題の解決を図り、住みよい地域づくりを進めるため、コミュニティの活性化を図る。

＜具体的な事業＞

- ・地域コミュニティ組織力の強化
- ・村おこし関連団体支援事業 等

### ○共生・交流のむらづくりの推進

外国や国内諸地域との交流を推進し、人々がお互いに個性を認めあい、いきいきと暮らせる共生・交流のむらづくりを進める。

＜具体的な事業＞

- ・観光 DMO 推進事業
- ・御杖村外国語人材育成塾運営事業 等

### ○行財政の適正な運営

未来のために必要な投資を行いつつ、無駄のない健全な行財政運営を進め、住民と行政が共同で自主・自立のむらづくりを進める。

＜具体的な事業＞

- ・ホームページ等活用情報発信事業
- ・小さな拠点づくり推進事業 等

※なお、詳細は第四次御杖村長期総合計画のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

100,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度8月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後は速やかに御杖村ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から2025年3月31日まで